

実践活動事例

◆富山市新川地区ブロック

大 沢 野	… P149
大 久 保	… P152
船 嶺	… P155
下 夕 ・ 小 羽	… P158
大 山	… P161
上 滝	… P164
大 庄	… P167
福 沢	… P170
細 入	… P173

《富山市新川地区ブロック民生委員児童委員協議会『活動強化方策地域版 2026～2028』》

1. 高齢者支援と孤立防止：見守り・転倒予防・カード登録で安心な暮らしを支援
2. 防災対応力の強化：訓練・研修・避難支援で災害時の備えを地域で整える
3. 委員制度の継続と魅力発信：負担軽減・相談体制・若年層への広報を推進
4. 地域交流の場づくり：サロン・カフェ・世代間イベントで絆を育む
5. 情報発信と参加促進：SNS・チラシ・対話で地域行事への関心を高める
6. 地域団体との連携強化：包括支援センター・自治振興会と協働で支援の幅を拡充
7. 委員のやりがい支援：定例会・情報共有・助言体制でモチベーションを維持
8. 過疎地域の支え合い推進：日常から災害時まで安心できる仕組みづくり

「一隅を照らす」活動事例

富山市新川地区ブロック
大沢野地区民生委員児童委員協議会

(様式1)

事例項目

事例2：さまざまな課題を抱えた人びとをささえるために

令和6年に重大な事案が2件発生し、担当の民生委員が適切な対応をとったという事例がありましたので、ここに報告したいと思います。

(1) 事件の解決につながった事例

令和6年2月に発生した遺体放置事件で、民生委員が果たした役割について、担当した民生委員(3期目)の報告です。

<事の起こり>

令和6年1月、能登半島地震の被害の調査をしている時に、班長さんから「Aさん宅のお母さん(80代)と昨年から連絡が取れない。同居している娘さん(50代)と話したが、母は元気ですと言うだけで、玄関にさえ入れてくれない」との情報が入りました。気になったので、区長さんに連絡し、再三Aさん宅を訪れましたが、応答は全くありませんでした。そこで、郵便受けに連絡先とお母さんとお話したい旨を書いた紙を入れましたが、返事はありませんでした。また、携帯にも出られませんでした。

<1月19日の地区会にて>

1月の地区会でこの状況を話し、皆さんの意見を求めました。一人で抱え込まないで、市の地域福祉係などに相談した方が良いというアドバイスを受けました。

<その後の行動>

2月1日に、大沢野行政サービスセンター地域福祉係に相談に行きました。そこで、母親は入院もしていないし、介護施設に入ってもいないことが判明しました。その後、再三訪問し、手紙を郵便受けに入れたりしましたが、進展はありませんでした。これらの状況を区長さんに伝えましたが、「しばらく様子を見ましょう」とだけ言われました。

<2月22日の地区会にて>

2月の地区会で、改めてこれまでの状況を報告し、皆さんの意見を求めました。もしかしたらこれは事件かもしれない、すぐに警察に連絡すべきだという、具体的な行動を促す意見が多数出ました。そこで、翌日地域包括支援センターの職員とAさん宅を訪問することにしました。

<2月23日の出来事>

訪問してみると、いつものように全く応答がなく、相談の上、警察に連絡し、これまでの状況を伝えました。その日のうちに警察官がAさん宅に入り、母親の遺体が発見されました。その後、遺体は約半年放置されていたことが判明しました。

<今回の出来事から>

この事件は全国ニュースになりましたから、よくご存じだと思います。

民生委員が情報を得てから素早く、きちんと対応したことと、その状況を地区会で詳しく報告し、アドバイスを受けた上で行動したことが、事件の解明につながったと思います。

(2) 脱水症状の高齢者を救った事例

令和6年4月の出来事で、自宅で倒れている高齢者（77歳）の発見につながる対応をとった事例です。担当の民生委員（1期目）の報告です。

<令和6年4月15日の出来事>

令和6年4月15日午前10時頃に、いつものようにその家を訪問しましたが留守でした。正午頃に再度訪問しましたが、やはり留守でした。

気がかりでしたので、午後にもう一度訪問しましたが、やはり留守でした。その時その方の前の家の方が、「昨日の夜、2階（寝室）の照明がついていなかった」と知らせてくれました。すぐに緊急連絡先の姪御さんに連絡しましたが、「今は行けない」と言われたので、必要なことをお聞きし、すぐに警察に行き、今までの状況を話しました。そして、警察の方と一緒にその家に行き、窓を外して家の中に入りました。そして、倒れているのを発見し、救急車を手配し、救急搬送しました。脳梗塞も発症しており、とても危険な状態でした。

<今回の出来事から>

4月19日の地区会で担当の民生委員から、「3月22日の地区会で、事例（1）の報告（遺体発見にいたるまでの状況）を聞いて、手遅れにならないようにやるべきことをやらなければ、という思いで行動しました」という報告がありました。この報告に、全員が納得の表情でした。

<2件の事例から>

今回の2件の事案から、地区会のあるべき姿と、問題が発生した時、まずは具体的な行動をとるべきであると、改めて認識しました。

(様式2)

活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

日本全体が高齢化社会に向かう中、ここ大沢野地区でもさらに一歩進んだ超高齢化が進行中の町内がいくつもあります。一方で、大沢野小学校の生徒数がどんどん減少しているという現実もあります。それだけに、我々民生委員・児童委員の果たすべき役割が複雑化・多様化しており、更なる意識の向上が必要です。

(2) 地区民児協としての課題への取り組み方

各種団体と連携し、行事等にも積極的に参加して、地域の皆様方に我々の存在と役割を知ってもらうことが求められます。

(3) 今後も取り組んでいく目標

高齢者宅への定期的な訪問や、児童見守り隊への参加・協力とあわせ、地域住民とのコミュニケーションが、より一層重要になってきます。

(4) 連携する機関（重要度順）

地域包括支援センター、社会福祉協議会、町内会（自治会）、各種団体

(5) 実施時期等（進め方・手順等・今後の取り組み課題等）

担当する区域の現状や問題点等を地区会で発表し、情報を共有する。そして、他の民生委員・児童委員の意見や考えを参考にして、より良い方策を検討していくという手順が必要であり、また、そういう認識が重要です。

《大沢野地区民生児童委員協議会『活動強化方策地域版 2026—2028』》

重点1 地域のつながり、地域の力を高めるために

- ・高齢者に対しては、特殊詐欺の防止や室内外での転倒の予防等を常に呼びかける。
- ・子どもは家庭や学校ばかりでなく、地域で育てるという意識を持つ。

「一隅を照らす」活動事例

富山市新川地区ブロック
大久保地区民生委員児童委員協議会

(様式1)

事例事項

重点1 地域のつながり、地域力を高めるために

<ポイント>

住民が課題を抱え、孤立してしまうことを防ぐ「予防の視点」の取り組みを重視していく

<事例テーマ>

(1) 自治会・町内会活動と民生委員・児童委員活動との連携強化

民生児童委員の選任方法が、強制的な順番制の町内会が多いため、任期さえ消化すれば良いとの思いがあり、使命感・責任感が薄いと感じられる。

また、自治会の役員に民生児童委員の役割や連携強化の説明をしても、任期が1～2年で、民生児童委員の任期と差があるため、民生児童委員との連携した活動・意識の共有が出来ない。

地域の特性として、新興住宅地が多く、地域内のコミュニケーションをとる機会が少なくなったり、世代間の連携・協力の意識が薄くなったり、地域住民間の協力体制を作りづらくなっている。

(2) 「一声運動」「挨拶運動」などを通じたつながりの強化

地域の高齢化に伴い、小学校の見守り活動員が減少してきた為に、民生児童委員に「見守り活動」の協力依頼があったのを契機に、現在、各地域で児童への見守りを実施している。児童への声掛けだけでなく、地域の方へ挨拶・一声をかけるようにし、名前と顔を覚えてもらう様心掛けたり、地域行事や社会福祉協議会の行事へ積極的に参加して、地域住民とのコミュニケーションの機会を増やすよう努力している。

(3) 住民同士が支え合える仕組みづくりへの協力

自治会で任命される福祉委員との連携を強化し、民生児童委員だけではカバーできない、新興住宅地や、子育て世代の情報を収集するとともに、高齢者・子供の見守り活動を協力してもらっている。

自治会の会合・老人会の集会に積極的に参加し、民生児童委員の役割・活動の内容をその都度説明し、自治会役員だけでなく、多くの地域住民に協力をお願いしている。

また、各地域に組織されている地域防災組織が沈滞している様に感じられるので、活動を活発化するとともに、民生児童委員を組織の一部に組み込んでもらい、住民同士が支え合う機会を増やすよう働きかけている。

(4) 子育てを応援する地域づくりの推進

地域の特性として、新興住宅が多いので、子育て世代の方が地域の役員に就任される機会が多く、子育てを応援する活動の広報・協力を頼みやすい状態になっているので、そうした若い住民へ子育てを応援してもらう様、声掛けしている。

また、地区会では社会福祉協議会が運営している「地域食堂」への積極的な参加を呼びかけ、地域の子供と関わりを持つ機会を増やしている。

子育てだけでなく、社会福祉協議会が、地域の高齢者のひきこもりや認知症の防止、お互いのふれあいを目的に「ひまわりクラブ」等様々な活動を実施されているので、民生児童委員として参加者の募集・運営に協力している。

<まとめ>

民生児童委員の役割・活動の内容を、色々な機会に、地域の方に説明・広報して、様々な情報を収集しやすくし、地域住民の課題を早期に見つけ出し、高齢者だけでなく子育て世代が孤立してしまわない様に、福祉委員をはじめ多くの方に協力を呼びかけていかなければならない。

また、地域への働きかけの方法をどうすれば良いか、民生児童委員間でお互いに意識し、考える必要がある。

(様式2)

活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

- ・近年、新住宅地が多数造成されたことで、若い世代の住民が多くなり、旧地域との年齢差が大きく、地域間世代間の考え方に差が出てきている。
- ・地域内の親睦を図る地域行事や、祭礼等への参加が減少し、地域内のコミュニケーションをとる機会が減っている。

(2) 地区民児協として課題への取り組み方

- ・民生児童委員の仕事が、高齢者の見守りが主だと思われるので、その他の役割を認識してもらう為に、老人会・町内会会合等へ参加し、民生児童委員の役割、仕事の内容を説明している。

(3) 今後、取り組んでいく目標

- ・地域行事への参加を増やし、住民に顔と名前を覚えてもらい、色々な情報を収集しやすくしたい。

(4) 連携する機関

- ・各町内会諸行事
- ・福祉委員との連携強化
- ・包括支援センターとの情報共有
- ・地域社会福祉協議会の行事への参加

(5) 実施時期等（進め方・手順等・今後の取り組み課題等）

- ・福祉委員の任期が2年で、町内会主導で選任されていて、仕事の内容も正しく伝達されていない為、毎年度初めに顔合わせを行い、民生児童委員と連携して欲しい仕事の内容を説明している。
- ・今春より、毎月の地区会に、包括支援センターに出席してもらい、地域内の問題等共有している。
- ・地区会において、社会福祉協議会の行事の参加者の募集、周知、参加、協力を呼びかけている。
- ・町内会役員会、諸会合に積極的に参加し、民生児童委員・福祉委員の役割、活動内容等を多くの方に理解してもらう。

《大久保地区民生委員児童委員協議会『活動強化方策地域版』2026～2028》

1. 世代間交流イベントを企画して、地域行事への参加率を向上させる。
2. SNS やデジタルツールを活用し、若い世代への情報発信を強化する。
3. 包括支援センターや福祉委員と連携して、現場の問題解決に取り組む。

「一隅を照らす」活動事例

富山市新川地区ブロック
船嶽地区民生児童委員協議会

(様式1)

重点1 地域のつながり、地域力を高めるために
＝地域住民ニーズをかなえる努力を惜しまないこと＝

テーマ：～地域の声に耳を傾け、孤立を防ぎ支え合いの輪を広げる～

1. 現状（これまでの歩み）（地域の力を育ててきた活動）

(1)【処遇検討会の開催】

毎月1回、民生委員が中心となり船嶽地区社会福祉協議会長も参加して、支援が必要な方の状況を共有し、地域でできる支え方を話し合う場作り。
この検討会は約32年続いています。

(2)【ひとり暮らし高齢者等を対象のサロン（すこやかクラブ）の開催】

船嶽地区社協と連携し、民生委員が対象者の把握から送迎まで関わり地域のつながりを育てています。

(3)【障害者支援施設との交流】

心身障害者総合支援施設「セーナー苑」へ定期的に訪問し、各種行事に参加したり、リサイクル作業のボランティア活動を行っています。

2. 今、取り組んでいること

- 定例会で情報共有、研修内容の報告
- 歳末見舞い品の配布と見守り訪問
- 地域イベント（ふなくら祭り）での募金活動
- 見守り安心カードの登録・更新支援

3. 今後も、大切にして取り組んでいくこと

(1)【他地区との定例連携強化】

月1回の情報交換で、広い視野と協力体制を育てる。

(2)【「ふなくら活性化協議会」の推進】

子育て・障害・高齢者支援など、誰もが安心して暮らせる地域づくりを、みんなで計画・実践を進めます。

4. 連携する機関（重要度順）

- ・ 船嶺地区社会福祉協議会
- ・ ふなくら親子の会（ふなくらす）
- ・ 富山県立富山高等支援学校
- ・ ふなくら活性化協議会
- ・ 心身障害者総合支援施設「セーナー苑」
- ・ 地域包括支援センター

5. 実施時期等（進め方・手順等・今後の取り組み課題等）

- ・ 月1回定例会で、現状の振り返りと今後の話し合いを継続する。
- ・ さまざまな資料等を活用して、誰にでもわかりやすい活動の見えるかをはかっていく。

6. 船嶺民児協のかかわっている発行物

- ①船嶺地区見守りあんしんカード
- ②ふなくら地区社協だより
- ③ふなくら親子の会（ふなくらす）

(様式2)

活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

- ・若い委員のなり手確保が難しい現状にあります。
- ・3年毎の一斉改選で3割～5割の委員が退任、1期2期で退任する委員がその半数を占めます。
- ・新任研修を受け、ある程度活動できる頃には退任という事が多く見られます。

(2) 地区民協として課題への取り組み方

地区民協の機能維持と3期以上活動できる委員が増える環境作り。

① 効果的かつ有意義な定例会とする。

- ・定例会では、市民児協会長会の資料を適格に伝え、共有する。
- ・研修会等の参加者は、定例会で各委員に伝達する。
- ・個々の委員単独では困難な事例は定例会又は会長に相談する。
- ・定例会を欠席した委員へは、後日議事資料を提供する。

② 必要が生じた場合は規約、個人情報取扱、組織の見直しを協議する。

(3) 今後、取り組んでいく目標

- ・コロナ禍で失われた活動の再会充実を無理のない範囲で図る。
- ・新任委員・経験の浅い委員への援助や助言をし、負担感の軽減を目指す。
- ・委員同士きめ細かな連携や協働を促進し委員の孤立を防ぐ。

(4) 連携する機関（重要度順）

地区社協・民生委員児童委員・自治振興会（町内会）・各種関連団体

(5) 実施時期等（進め方・手順等・今後の取り組み課題等）

- ・月1回の定例会を軸に、年間活動計画を策定
- ・新任委員向けの「スタートガイド」や「同行支援制度」の導入
- ・定例会での「ミニ事例共有」や「気軽な相談タイム」の設置
- ・地域の声を集めるアンケートや意見交換会の実施

《船峯地区民生委員児童委員『活動強化方策・地域版2026-2028』》

重点3 民生委員・児童委員制度を守り、発展させる

テーマ 民生委員・児童委員制度を守り、委員同士が協力し合い次代に引き継いでいける環境作り。

- ・定例会の充実をはかると共に、相談できる雰囲気作りと運営を目指す。
- ・個々の委員の負担感の軽減をはかり、お互いに援助と助言を強化する。

「一隅を照らす」活動事例

富山市新川地区ブロック

下夕・小羽地区民生委員児童委員協議会

(様式1)

1 事例事項

重点1 地域のつながり、地域力を高めるために

2 事例テーマ

(1) 自治会・町内会活動と民生委員・児童委員（以下「委員」）活動との連携強化

(3) 住民同士が支え合える仕組みづくりへの協力

3 概要

(1) 基本情報

下夕北部地区（5集落、56戸）は、神通川右岸の山間地にある。土砂災害が発生した場合、数棟の住宅が被害を受け、さらに、いくつかの集落は孤立するおそれがある。

そのため、令和3年度から自治振興会等と連携して防災研修等を実施している。

(2) 活動の目的

上記の理由により、住民の防災意識を高めるとともに、集落単位で避難行動要支援者を支え合う体制づくりを進める。

(3) 活動内容

令和3年11月から、自治振興会等で次表のとおり住民の防災意識の向上等に取り組んでいただいている。

年月日	実施内容	主催
R3. 11. 19	市役所出前講座（対象：自治振興会役員）	自治振興会
R4. 05. 24	県防災士会による防災講座 （対象：自治振興会役員他）	自治振興会
R4. 08. 21	防災訓練 終了後、役員等で防災士を交え意見交換	自治振興会 自治会
R4. 10. 08	非常用持出袋を配布 （対象：ひとり暮らし高齢者8人）	社会福祉協議会
R5. 10. 13	市役所出前講座 （対象：ふるさとづくり推進協議会役員）	ふるさとづくり推進協議会
R6. 10. 02	四季防災館における体験学習	社会福祉協議会
R7. 01. 14	各戸に緊急時連絡先名簿の作成を依頼	自治振興会、自治会

(4) 活動の成果

本年1月に取り組んだ「緊急時連絡先名簿」の作成については、56戸中48戸から提出があった。提出のあった名簿は、各集落の総代が保管するとともに、その写しを下夕北部公民館で保管している。この名簿は、災害時以外にも緊急に家族等に連絡しなければならない場合に活用することとしている。

なお、昨年1月の能登半島地震発生時に避難所が開設された下夕北部公民館に避難したのは1家族2人、親戚宅に避難したのは1家族3人に過ぎなかった。

(5) 課題と改善点

過去の災害では、正常性バイアス[※]が原因で避難が遅れ、被害が拡大した事例が数多く報告されている。しかしながら、前述のとおり、住民の多くは依然として「地震等の災害は他人事」だと思っており、防災意識は期待するレベルに達していない。

※ 災害などの緊急事態に直面した際に、危険を過小評価し、「自分は大丈夫」と思い込んでしまう心理的な傾向 出典：「正常性バイアス 災害」のAI回答

(6) 今後のアクションプラン

災害発生時、集落ごとに避難行動要支援者を含む全住民が安全に避難できる体制の整備に向けて、引き続き取り組んでいく。

(7) 添付資料

本年1月に実施した緊急時連絡先名簿の様式は、次のとおり。

緊急時連絡先名簿

集落名	寺津・町長・布尻・今生津・芦生	
世帯主氏名	連絡先	
	固定電話	
	携帯電話	
同居家族氏名	携帯電話	
親族等氏名	続柄	携帯電話 又は 固定電話

※ 親族等氏名 : 世帯主又は同居家族に連絡が取れなかった場合の連絡先

(様式2)

活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

高齢化の進展、一人暮らし高齢者及び一見正常に見える認知症を抱えた人の増加に伴い、救急車のサイレンをよく聞くようになった。(聞くところによると心臓疾患・熱中症の患者が多いとのこと)

また、一人暮らし高齢者の死去によって、空き家が増えた。

(2) 地区民児協として課題への取り組み方

支えを必要としている人の状況把握に努める。

(3) 今後、取り組んでいく目標

- ・特に心配な高齢者一人暮らしの人の緊急事態に備えて、「命のバトン」の取り組み
- ・高齢者の個人人権を尊重し、「住み慣れた地域で安心して自分らしい暮らしを続けられる」よう、ケアシステムづくり

(4) 連携する機関(重要度順)

包括支援センター、自治振興会、地域社会福祉協議会、保健所、親族、近隣住民、地区行政センター、警察駐在所

(5) 実施時期等(進め方・手順等・今後の取り組み課題等)

安心・安全カードの新規登録

閉じこもりがちな人に行事参加勧誘

《下夕・小羽地区民生委員児童委員協議会『活動強化方策地域版』2026～2028》

重点2 さまざまな課題を抱えた人びとを支えるために

関係機関と連携し、一人暮らし高齢者や高齢者世帯の孤立を防ぎ「住み慣れた地域で安心して自分らしい暮らしを続けられるケアシステムづくり」を目指す

- ① 安心・安全カードの新規登録
- ② 閉じこもりがちな人に行事参加勧誘

「一隅を照らす」活動事例

富山市新川地区ブロック
大山地区民生委員児童委員協議会

(様式1)

【事例4】

能登半島地震における校下・地区民児協の対応について

(1) 地域の特性

大山地区は富山市の中でも一番東の奥まった地域であり、立山山麓スキー場や栗巣野スキー場、そして亀谷温泉や有峰県立自然公園を有している。

地域は11の集落で構成しており、それぞれの集落は一番大きな集落でも50軒、一番小さい集落はたったの2軒である。

近年過疎化の波が著しく集落の数は多いが人口は全ての集落を合わせても500名足らずしかない。また、高齢化率も著しく高くなっている。

山あいの各集落間は離れており、このような集落構成の中、6名の民生委員児童委員（主任児童委員を除く）が各々1～4の集落を担当している。

(2) 民生委員として活動した内容（発生時・発生以降）

2024年1月1日午後4時過ぎ、正月なので今晚はすこし早い夕食にしようかと話していた時最初の揺れ、そしてその揺れの後数秒後、過去にも経験したことがないほどの揺れに襲われた、妻は食器棚が倒れないかと手を添えており、自分はテレビが倒れないかと手を添えて耐えていた。揺れの時間ははっきり分からず30秒程度だったのか1分程度だったか分からないがとても長く感じた。

強くて長く感じた地震であったが、幸い部屋の中の物が倒れたり、棚から物が落ちたり被害はなく、その後外へ出てみると集落内一斉に外へ飛び出して来ていたが、被害があつての騒ぎなどはなく元の静かな正月に戻った。

(3) 地域の様子（発生時・発生以降）

早速、各委員へ正月の挨拶と地震による怪我人などの人身被害、また、家や道路などの被害の発生状況等についてLINEを送ったが、いずれの委員からも返事は「特に異常はなかった。」とのことであり、ほっと胸をなでおろした。

(4) 民生委員としてできたこと・できなかったこと

今回は、震源地が能登半島と当地区からは離れていたため、これといった被害もなく、そのまま終わったが、これが一人でもけが人等があった場合は、当該集落の担当民生委員は普段経験したことがない事例の発生に戸惑い・何をすればいいのか等で一種のパニックになることも予想され、普段からの周到的な準備が必要な事、さらに我々会長の立場で指導や相談相手となれるような勉強そして密接な連絡を取ることが必要と思われる。

(5) 地震で感じた課題

今回は、当管内でのけが人や被害の報告がなかったからよかったものの、これがさらに大きな規模の地震の場合、状況を把握するのに相当時間がかかるものと思われる。

当地区の場合、1委員が複数の集落を担当している場合があり、各集落の被害状況を把握するのに果たして車で現地に行くことが可能かどうか。

という事は被災者自体を救急施設へ送り届ける事さえ困難な状況も想定しなければならぬ事も予想される。

(6) 今後のアクションプラン

被災者の救助については消防や警察など専門の組織の方々にお任せすることとして、情報の収集に関する解決する方法として、民生委員児童委員のいない集落には、補助的な役を負っていただける高齢者福祉推進員を選任しておくのも一つの方法ではないか？

担当民生委員児童委員と福祉推進員が携帯電話や LINE の通信で情報のやり取りができれば、状況把握や各種情報の収集が捗ると思われる。

我々は普段から被災者の氏名・年齢・住所やかかりつけの医療機関・近親者の連絡先などをすぐに記入できるような用紙の準備など手筈を整えておくことが必要ではないかと思われる。

(様式2)

活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

高齢者、特に一人暮らし高齢者の増加と、民生委員児童委員の成り手の不足。
(若年層の地区外流失により民生児童委員の成り手も不足)

(2) 地区民協として課題への取り組み方

現在の民生委員児童委員の構成年齢は60歳台から70歳台をさらに一步下げて民生委員を確保する必要がある。

(3) 今後でも取り組んでいく目標

現在も不在となっている集落の民生児童委員の確保

(4) 連携する機関(重要度順)

自治振興会、民生児童委員不在集落の総代

(5) 実施時期等(進め方・手順等・今後の取り組み課題等)

また自治振興会を通じての要請と当該集落の民生児童委員の選出方法の変更を総代に強く働きかけ、

(6) 活動強化方策の策定に必要な図及び写真等の添付

特になし、即自治振興会・総代への働きかけを要する

《大山地区民生児童委員協議会『活動強化方策・地域版2026～2028』》

各集落が人手不足・委員のなりて不足が深刻な状況になりつつあることから、今後は現委員が最低隣接集落の状況把握に努める。

「一隅を照らす」活動事例

富山市新川地区ブロック
上滝地区民生委員児童委員協議会

(様式1)

1 事例項目

地域のつながり、地域力を高めるために
(ポイント) 住民が課題を抱え孤立してしまうことを防ぐ「予防の視点」の取り組みの重視

2 事例テーマ

住民同士が支え合える仕組みづくりへの協力
—「カフェ和いわい」の取り組み—

3 概要

(1) 地域の特性

コロナ禍で活動がすっかり内向きになっていたころからみれば、ドラッグストアの開店やあいのり大山(デマンドバス)の実施により買い物難民がやや減少してきており、地域が少し活気を取り戻してきている。それにより住民は、人との関わりを求める気持ちが高まりつつあり、また外向きの活動の機会を欲している。

少子化・高齢化は県平均や市平均よりずいぶん高いが、小学校を会場とした「カフェ和いわい」は4年目を迎え定着してきている。また、2024年元日の大地震により避難場所である小学校に集う意味を実感してきている。

地域住民の子供たちへの関心は高く、異世代の交流を楽しみにしている。

(2) 活動の目的

- ・ 社協・食改のスタッフが中心となり、民児協のほか・小学校・保育園・保健センター・包括・お話の会・合唱クラブその他様々な組織が連携することで、人と人との関わりや有用な情報を提供する。
- ・ 避難場所である小学校で開催することでその経路を確認し、校舎中の様子を知ることができる。
- ・ 住民と子供たちとのつながりをもつことで、地域全体で子供たちの安全と成長を見守る温かい雰囲気づくりをする。

(3) 活動の内容

- ・ 毎月第2火曜日(3・4・8月は休み)、小学校2階「みんなの広場」で実施
- ・ 小学生との交流: 子供たちの学習の発表を聞いたり、調べもの学習の相談にのったり、小学校の行事(音楽鑑賞会等)に観客として参加したりする。
- ・ 保健センター・包括・食改からの健康に関することや催しの案内等の情報提供
- ・ 専門機関のミニ講義: 「成年後見人制度」「あいのり大山」他
- ・ クイズやお話の会による朗読、合唱クラブと一緒に懐かしい歌の時間など
- ・ 保育園提供のおやつ付きのカフェタイム
- ・ 参加者同士の交流: 自由団らんのほか、みらいミーティングが話題提供して昔の上滝についてグループトーク等を行う。
- ・ 各関係機関や参加者と民児協との情報交換

(4) 課題と対応

各町内で民生委員が中心となっていて行っているいきいきサロンで培った地域住民との関わりを「カフェ和いわい」で地区へと広げる。そこで得た情報等をまたいきいきサロンに持ち帰ることで、コロナ禍明けの落ち込んだ人と人との関わりが活性化してきている。ただ、まだまだそのような活動に参加できない人々もいる。そのような方たちに直接声かけをできるのは各町内の民生委員である。ふだんの見守り活動やふれあいカード作成や弁当配食などの機会に声かけをして、第1歩を踏み出すきっかけを作っていきたい。

(5) 添付資料

町内ごとの「いきいきサロン」の活動



地区全体対象「カフェ和いわい」



保健センター

包括

社協

小学校
保育園

食改

行政

自治振興会

お話の会

合唱クラブ

(様式2)

活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

地元商店街の衰退やスーパーマーケットの撤退で生活の不便さを感じている住民が多くなっていった。少子高齢化にも拍車がかかり、地域の活動が難しくなっている。また、2020年からの「コロナ禍」が与えた影響は大きく、各町内会での行事が減少し、住民同士の間関係が希薄になった。追い打ちをかけるような2024年元日の大地震で不安な気持ちを持ったり心細く感じたりする人々もいた。コロナ禍が明け、地域にドラッグストアが進出したことで人々は少しずつ元気を取り戻し、外へと足が向くようになってきた。

(2) 地区民児協として課題への取り組み方

①「カフェ和いわい」の共催（原則毎月第2木曜日、上滝小学校にて）

各関係機関の特徴を生かした話題の提供と、一步を踏み出せない方の参加を促せるような声かけ

②ひとり暮らし高齢者への年2回の弁当の配食（地区社会福祉協議会への協力）

③いきいきサロンの開催（各町内で毎月1回程度活動、民生委員が中心となり世話人を務める）

(3) 今後、取り組んでいく目標

①上滝小学校での「カフェ和いわい」の開催の継続。定期的にコーヒーを飲みながらの団らん、関係機関からの有益な情報提供、小学生との交流を通して、地域の人々が居場所だと感じられる場所をつくり、より多くの方に参加してもらえるようにする。

②弁当配食の機会にも「カフェ和いわい」やいきいきサロンの話題なども出し、一緒に活動できるようにし、より多くの人々と関わりを持てるようにする。

③各町内でのいきいきサロンでは、これまで通りの活動に加え「カフェ和いわい」で得た情報を提供したり、活動の参考にしたりする。

(4) 連携する機関（重要度順）

社会福祉協議会、食生活改善推進連絡協議会、小学校、地域包括支援センター、保育園等

(5) 実施時期等（進め方・手順等・今後の取り組み課題等）

上記のように、地域での活動の幅を広げることにより、地域のつながりづくりや地域力の向上に貢献してきた。一方、民生児童委員の負担も増えた。この現状も踏まえて、地域での活動が継続できるように課題を整理していくことが必要である。

《上滝地区民生児童委員『活動強化方策・地域版2026～2028』》

重点1 地域のつながり、地域の力を高めるために

・各種団体との連携による地域住民の集いの場「カフェ和いわい」の継続により、人と人との関わりを広げる。

令和7年度「一隅を照らす」活動事例

富山市新川地区ブロック
大庄地区民生委員児童委員協議会

(様式1)

1 事例項目

能登半島地震における地域住民等のアンケート調査から

2 事例テーマ

能登半島地震を通して学んだ災害時における課題と対応策

3 概要

(1) 基本情報

◎「大庄地域の特性」

令和2年度から全27町内で、各町内を中心に防災組織を立ち上げ、『大庄地区自主防災連合会』として活動している。

◎『大庄地区自主防災連合会』の活動

- ① 防災訓練計画と実施 ② 防災意識の普及啓発と人材育成 ③ 関係団体との連携
- ④ 災害用機材の見直し ⑤ 校区内巡回・危険箇所点検の実施 等々。

(2) 活動の目的

防災活動に必要な事項を定め、『地震・風水害・雪害等の災害による人的及び物的被害の発生予防』や『各訓練の実施』(情報の収集・伝達訓練 避難訓練 救出・救護訓練)、『防災講演会の実施』等を計画的に行っている。

民生委員・児童委員も地域で行われる避難訓練等々の防災活動や防災講演会等には、積極的に参加し、日常の民生委員・児童委員活動に活かしている。

(3) 活動内容

① 能登半島地震(午後4時10分)における各委員の様子(アンケート①)

- ・自宅にいて、いつもの日常と変わらない生活をしていた。(大きな揺れを感じ、緊急放送に釘付けになっていた。自宅は、全く被害が無かった。)
- ・お正月なので、お酒を飲みながらテレビを見ていた。(家族で団らん中)
- ・仏壇の物が倒れて、花入れの水で仏壇の中がビチャビチャに濡れた。
- ・小学生の孫が、真っ先にテーブルの下に隠れた。(学校での避難訓練の効果)
- ・揺れが収まったので、外に出て自宅や近隣の状況を確認した。倒壊等は見られなかったので安心した。
- ・1人の民生委員さんから、「民生委員として何か行動することがありますか。」と問い合わせの電話があったが、全く揺れを感じることなく危機感も無かった。
- ・1月4日の仕事始めの日に、全く別の要件で大庄公民館へ行き、初めて事の重大さを知った。

② 【お買物バス】(中山間地で「一人暮らし高齢者等」が乗車)の中での会話から

- ・「大きなシャンデリアが大きく揺れ、落ちないかとすごく心配だった。」

- ・「戸棚の扉が開き、中のものが飛び出して壊れ、棚の上の物が落ちてきて怖かったので、外に飛び出した。玄関の外で、寒さ・怖さと孤独に耐えていた。」
- ・要援護者の皆さんが、バスの中で1月1日に体験されたことを真剣に発せられる訴えに対して、民生委員として共感しながら傾聴に徹した。
- ・担当地区の要支援者の調査・把握。近隣の被害状況の確認。要支援者宅を戸別訪問したり、電話で被害の有無を確認したりして、被害状況等の把握に努めた。その結果、全員が無事であることの確認が出来て安心した。

(4) 活動の成果

- ① 1月1日の震災を契機に民生委員相互のグループLINEをつくり、連絡を取り合っている。グループLINEを通していろいろなことを共有し合い、相互に委員としての活動を意欲的に進めていきたいと決意を新たにしている。
- ② 民生委員・児童委員として、突然に生ずる『自然災害時の対応策』について情報交換し合っていくことの大切さ・重要性を強く感じた。

(5) 課題と改善点

- ① 『災害時等の緊急時に行う民生委員・児童委員の対応方法に関するマニュアルが、退任されている先輩の方々（『民生委員・児童委員』）によって作成されていたのに、忘却の彼方に置かれていたことが、今回判明した。災害に対する危機感が希薄で、全く修正を加えることも無く…。心から反省している。
- ② 今後は、先輩の民生委員・児童委員の方々の足跡も参考にし、必要な場合は修正を加えながら、委員全員で協力し合って、『災害時におけるより良いマニュアル』を再構築し、伝統ある大庄校区民児協の素晴らしい宝物を継承していきたい。

(6) 今後のアクションプラン

今回の地震を通して、『地震に対する認識が薄かったこと』を反省している。

大庄校区民児協の会長も、令和7年度から『大庄地区自主防災会』の役員の一に加えて頂いている。今後は、「防災訓練」や「防災研修会」等に参加する機会が増えると思われる。各種の会合等には、積極的に参加して学ばせて頂き、民生委員相互の共通理解のもとに、「防災意識の高揚」と「より安全な防災対策の実践」に努めていきたいと考えている。

(7) 添付資料



令和6年8月 避難所運営訓練



令和6年11月 DIG 訓練



令和7年4月 防災講習会

(様式2)

活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

多くの人命を奪い、住み慣れた大切な自分たちの居場所・地域を一瞬にして失った予期せぬ能登半島地震。大庄地域の被害は、他の地域に比較して少ない方だったが、突然に生じる自然災害の恐怖を他人事ではなく、身近なものとして大庄地域の全ての皆さんが痛感されている。そして、自然災害から身を守り、大庄地域での地震災害・風水害・雪害等々の災害による人的及び物的被害の拡大防止を図ることの重要性も痛感されている。

(2) 地域民児協として課題への取り組み方

- ① 『防災連合会』では防災知識を高める為に、『防災組織の普及』を行っている。
◎防災知識及び防災計画 ◎地震・火災・風水害・雪害等についての知識
◎地域周辺環境に応ずる防災知識・各家庭での防災上の事前対策と対処方法
- ② 防災訓練の実施
災害発生に備えて、情報収集・伝達・消火・避難等の迅速、的確な実施の為に。
- ③ 情報の収集・伝達 《情報班》
- ④ 救出・救護
- ⑤ 避難 《誘導班》 ※ 事前に避難路を点検し、安全確認を行う。
避難誘導の指示 ・ 避難経路図の確認 ・ 避難場所の点検と確認
- ⑥ 食料・給水《食料・給水班》
市から配布された食料の配布・炊き出し等の給付活動
- ⑦ 資材・機材の整備及び地震予知警報の発令に伴う対策

(3) 今後、取り組んでいく目標

民生委員として防災知識を学ぶために、校区で行われる訓練や研修会に参加する。

(4) 連携する機関（重要度順）

自治振興会・自主防災会・地区センター・施設管理者（大庄小学校・上滝中学校）
大山消防署（大庄分団） 富山南警察署・大山病院

(5) 実施時期等（進め方・手順・今後の取り組み課題等）

防災訓練（全住民対象）

- ①「初動対応訓練」②「避難所運営訓練」各々年1回
- ③「防災研修会」④「災害用資機材の見直し（購入計画・見直し計画）」
- ⑤「校区内巡回」⑥「危険箇所点検」等

《大庄民生委員児童委員協議会『活動強化方策地域版 2026～2028』》

地域で行われる『防災訓練』や市・県等の『防災研修会』等に積極的に参加して学び、防災意識・防災意欲を高め、地域の災害時に対応できるようにする。

「一隅を照らす」活動事例

富山市新川地区ブロック
福沢地区民生委員児童委員協議会

(様式1)

事例事項

<事例2> さまざまな課題を抱えた人びとをささえるために

<事例テーマ> 社会福祉協議会との一層の連携・協働

<福沢地区社協の安定的運営のために>

福祉の中心となるべき、福沢地区社協の会長・事務局長は20数年間交代できずに務めていました。本人達も交代を望んでいたことに加え、福沢地区の福祉の将来の為、安定的に世代交代を図れるような制度を構築することとし、福沢地区の代表的4団体(自治振興会・社会福祉協議会・老人会・民生委員児童委員協議会)で協議しました。

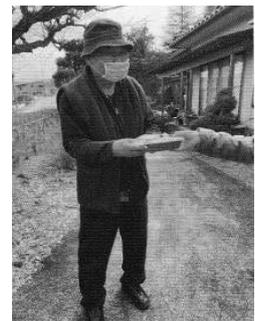
(1) 福沢社会福祉協議会運営体制の構築

- ①各団体から役員を交互に出して役員の固定化を防ぐ。
- ②福沢社協の役員任期は既定の2年任期とする。
- ③老人会からは副会長1名の選出とする。
- ④自治振興会と民生委員児童委員協議会から2名ずつ選出して、交互に役員を務める。
 - ア、会長と会計(7~8年度は自治振興会から選出)
 - イ、副会長と事務局長(7~8年度は民児協から選出)



(2) 福沢社会福祉協議会との協働

- ①ふれあいカード登録による高齢者の現状把握
65歳以上で同意が得られた一人暮らし高齢者と高齢者世帯を、ふれあいカードに登録し、随時現状維持するとともに年1回の再確認をしています。
見守り活動の原本となっています。
- ②ふれあいケアネットによる見守り活動
民生児童委員と高齢者福祉推進員による見守りを実施しています、それぞれの委員の都合に合わせて定期的に見守っています。
- ③弁当の配布
65歳以上のひとり暮らし高齢者に3月と11月の年2回、食事改善グループに依頼して、弁当を作ってもらい配布しています。
お知らせチラシの配布時と弁当配布時に安否確認ができます。



④いきいきサロンの開催

いきいきサロンの世話人の多くは委員が担っており、安否確認に役立っています。



⑤ふくさわ祭りの開催

福沢地区住民の連帯と娯楽のため毎年開催しています。

歌謡・芸能等・ゲームコーナー・味噌汁の提供・児童会のダンスや歌・住民の作品の展示会等、楽しみの場となっています。

また、同時に「ふれあいの集い」を開催して、ひとり暮らし高齢者を招待し楽しんでもらっています、会場まで来られない人には委員が送迎しています。

準備・運営・片付け等は各団体が組織した実行委員会で行っていますが、民生児童委員が主体となっています。



⑥児童福祉懇談会

主任児童委員が中心になり委員全員と福沢小学校の先生方及び地区社協との情報交換をしています。



(3) 社協運営体制の構築後のメリット

- ①福沢各団体から役員が選出されているため、各団体間の意思疎通が容易になった。
- ②社協の事業に対する理解が深まるとともに、協力体制が構築できた。
- ③民生委員児童委員の活動が地区団体に理解してもらえるようになった。

(4) 社協運営体制の構築後のデメリット

- ①社協役員はそれぞれの出身団体でも役職を持っているため、負担が大きくなった。

(5) 今後の活動

今後、ますます少子・高齢化が進行することが予想され、地域の元気が失われて行くことが予想されるが、自治振興会・福沢社協・老人会・各総代・公民館と協力して、住民が安心して暮らしていける福沢を目指して活動します。

(様式 2)

活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

- ・高齢化が進み、委員のなり手確保が難しい。
- ・委員定数7人の中から2人の社協役員を出すのは苦しい。新任委員がいる場合はなお苦しい。

(2) 地区民児協として課題への取り組み方

- ・新任委員の早期育成。
- ・基本的な知識習得のための、勉強会の実施。
- ・委員が生きがいを持って、楽しく活動できる環境造り。
- ・委員の問題を、全体の問題として解決していける組織造り。
- ・些細な事でも相談し合える、風通しの良い環境造り。

(3) 今後、取り組んでいく目標

- ・地区社協と民児協の更なる連携強化。
- ・定例会において、先輩委員からの事例紹介。
- ・「活動の手引き」による勉強会を実施し、新任委員の早期のスキルアップを図る。

(4) 連携する機関(重要度順)

- ・福沢地区社協
- ・自治振興会
- ・公民館
- ・町内会
- ・老人会

(5) 実施時期等(進め方・手順等・今後の取り組み課題等)

- ・社会福祉に興味がある人に声掛けし、組織の役員を務めてもらう。
- ・社協委員に就任した委員に対し、民児協の支援を図る。

《福沢地区民生委員児童委員協議会『活動強化方策地域版 2026～2028』》

「さまざまな課題を抱えた人びとをささえるために」

- ・ふれあいカード登録による高齢者の現状把握の推進と現行化。
- ・地域内の各団体と連携し、気になる人を「早期発見」し、適切な支援に繋げる。

「一隅を照らす」活動事例

富山市新川地区ブロック
細入地区民生委員児童委員協議会

(様式1)

重点1 地域のつながり、地域力を高めるために

テーマ 住民同士が互いに支え合うしくみづくりとその推進

(1) 現状

平成17年の富山市合併以来20年が過ぎ、若い年代の世帯が旧細入村外へ移り住むことによって、徐々に人口が減少し高齢化が進むなど、過疎化による社会生活の維持をいかに図っていくかが今後の課題である。

令和3年4月、約1,200人だった旧細入地区の人口は、令和7年4月現在で、1,085人、そのうち65歳以上の高齢人口が占める割合は約44%から46.8%となり、富山市の中でも特に高齢化率が高い地域となっている。

この現状や最近の自然災害発生状況を踏まえ、民生児童委員として取り組んできた見守り活動や相談活動に加え、福祉に関係する組織(社会福祉協議会、自治会、地域包括支援センター、地域の福祉施設等)とのケアネットの構築が地域住民の安心、安全な生活及び福祉向上を目指す上での課題である。

(2) これまでの具体的な取り組み

(ア) 福祉講演会への参加

地域の現状から、地域には一人一人が抱えるさまざまな福祉ニーズが存在する。必要な人に必要な支援をとどけるためのケアネットの在り方について、富山短期大学福祉学科の関氏から「地域福祉の取り扱いガイド」と題するお話を聞いた。

民生児童委員として活動を振り返るとともに、今後の地域福祉の在り方についての認識を新たにできた。

見守り活動のポイントは、まずさりげない声かけをきっかけとし、顔見知りの関係を築く中で、何気ない変化に気づくこと(アンテナ役)、福祉の水先案内人としてケアネット(社会資源)につないでいくこと、そして、その活動によって福祉サービスの掘り起こしやサービスの向上に結びつながることについて理解を深めることができた。



(イ) おおさわの福祉会「かがやき」の訪問

令和6年4月に名称を変更し、令和7年4月に施設をリニューアルしたおおさわの福祉会「かがやき」の内覧会に参加した。おおさわの福祉会は、特別養護老人ホーム「ささづ苑」、地域密着型特別養護老人ホーム「ささづ苑かすが」、介護老人施設「かがやき」、グループホーム「つばさ」、ケアパーク「おおくぼ」、デイ多機能「おおくぼの森」の施設を運営しており、それぞれの施設がその特色を生かし、地域交流を基本に地域に根ざした活動と多様なニーズに応えることを基本的な理念として運営されているとの説明を受けた。

介護老人保健施設「かがやき」では、利用者が安心して過ごせる空間や雰囲気作りに重点が置かれ、自立支援を目指す通所リハビリテーションとしての機能を充実させ、地域に開かれた施設としての考え方が随所に表れていた。

さらに、職員が働きやすい環境作りにも配慮がなされ、これからの福祉の在り方を先取りした先進的な福祉施設であるという印象を受けた。

「温泉のあるリハビリ施設」として、正面玄関、エントランスは温泉宿を思わせるような趣があり、共有、共同スペースではお茶などを飲み、くつろぎながらおしゃべりを楽しむ入所者がいるなど、自宅にいる時と同じように気持ちで時間を過ごせるような工夫がされていた。また、利用者が自主的にリハビリを行うための機器が設置され、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士による手厚いリハビリ、スペースワンダーなど在宅復帰を目指すための新しいリハビリ機器も導入など、施設、スタッフともさまざまなニーズに対応できる環境も整っていた。



施設内 LAN による ICT 導入によって、職員の情報共有、リモート会議、音声での記録入力等によって仕事の効率化を図り、利用者にとって必要で適切なサービスの提供を行える環境が整えられており、今後利用者や入所希望者が増えていくことが予想された。

(ウ) 「くらしの便利帳」の作成・配布

日常生活に役立つ情報を小冊子にまとめた「くらしの便利帳」を作成し、地区全世帯に無料配布している。

主な内容として、カレンダー、西暦・年号・年齢対照表、国内郵便料金早見表、JR高山線・地鉄バス時刻表、ゴミ収集カレンダー、保養施設が運行する無料バス情報、近隣の医療機関の住所・電話番号、地域で行われている暮らしに関わる様々なサービス（福祉・健康サービス、宅配サービス、移動販売）、各地域の見学マップ等、地域に根ざした生活情報を掲載している。



(3) 今後の取り組みに向けて

① きめ細かな見守り、相談活動の推進

一人暮らしの高齢者や地域住民の福祉ニーズを把握し、地域包括支援センターや地域の福祉施設との情報交換を密にしながら、担当のケースワーカーやソーシャルワーカーとの情報共有、対応等への共通理解を図る。

② 災害に対する連携の在り方の確認

地震や異常気象による自然災害の発生に備え、高齢者世帯を把握するとともに、自治会や消防団、民生委員、福祉相談員、福祉推進委員、社会協議会などとのネットワークを活用し、災害の発生に伴う避難ルート及び避難行動の在り方等について日頃から情報共有、共通理解を図るように努める。

(様式2)

活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

- 高齢化・過疎化が進行し、地域のつながりや自治活動の維持が困難に。
- 一人暮らし高齢者の増加により、閉じこもりや孤立のリスクが高まっている。
- 民生委員が複数町内を担当し、情報把握が困難な状況も。

(2) 地区民児協として課題への取り組み方

- 定例会や研修会で課題を共有し、見守り・相談活動の質を高める。
- 地域福祉講演会や施設訪問を通じて、福祉の理解と連携を深める。
- 「くらしの便利帳」など情報ツールを活用し、住民への支援を強化。

(3) 今後取り組んでいく目標

- 見守り活動の強化と、孤立防止のための交流促進。
- 地域サロンや居場所づくりへの参画。
- 災害時の支援体制整備と情報共有の強化。
- 民生委員の研修と情報収集の充実。

(4) 連携する機関（重要度順）

1. 社会福祉協議会ブロック長、福祉推進員
2. 町内会
3. 地域包括支援センター、保健福祉センター
4. 地区センター、校下各団体
5. 教育・保育機関（こども園、小学校、中学校）
6. 警察署・消防署などの防災関連機関

(5) 進め方・手順・今後の取組課題等

- 日々の見守り活動を通じて実践し、定例会で方策を協議・決定。
- サロン実行チームの立ち上げや、地域との協働による企画推進。
- 災害時の避難行動や支援体制について、関係機関と共通理解を図る。

《細入地区民生児童委員協議会『活動強化方策・地域版 2026～2028』》

- ①高齢化・過疎化が進む地域で、孤立防止と災害対応を支える見守り体制を強化。
- ②地域サロンや情報ツールを活用し、住民同士が支え合うしくみを推進。
- ③関係機関と連携し、日常から災害時まで安心できる地域づくりを目指す。

